

茨城県と満州移民

筑波大学名誉教授 伊藤純郎

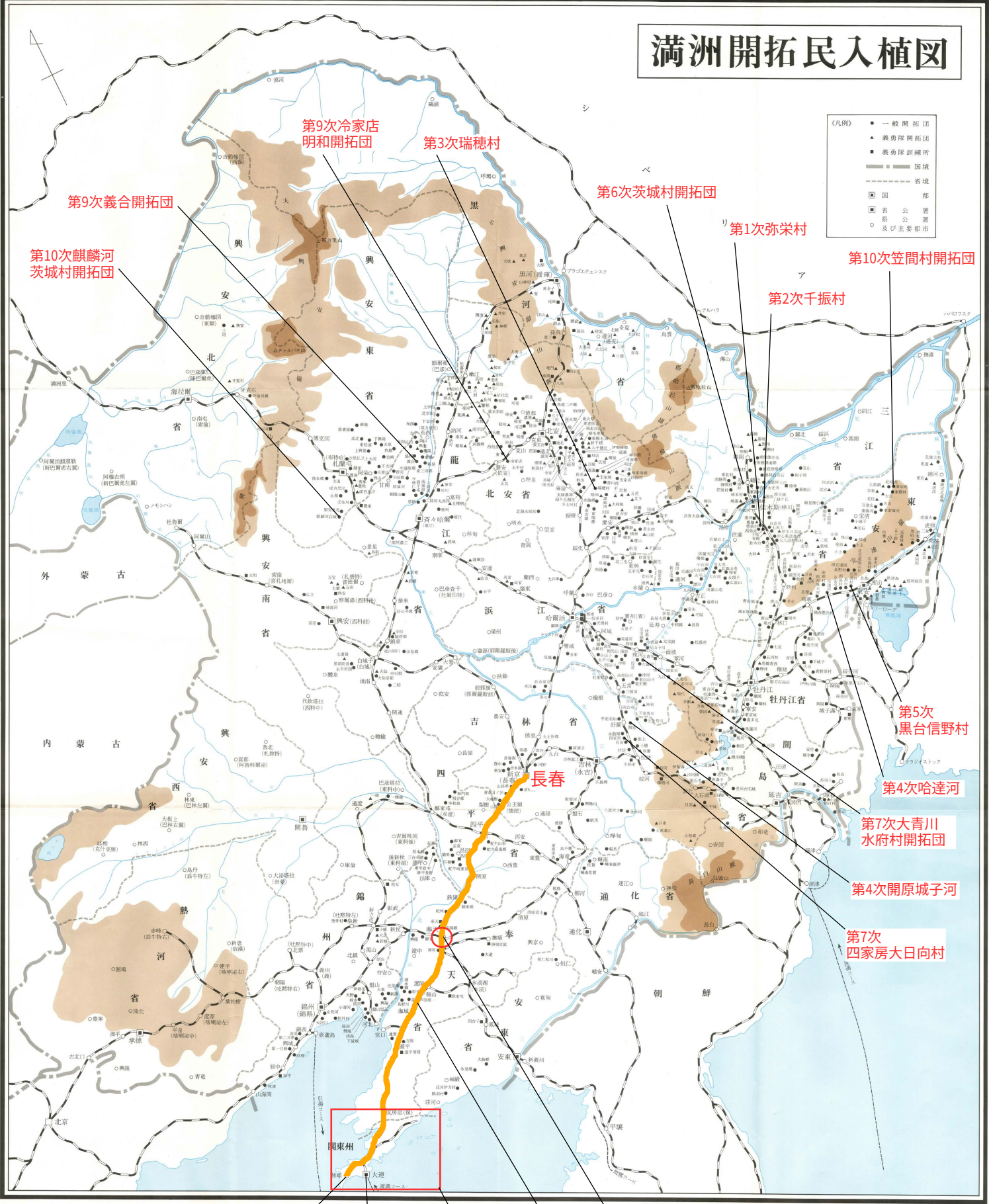
（1）茨城県の満州開拓団

開拓団名	構成	戸数	茨城県	入植年月日	所在地
集団第1次弥栄村開拓団	茨城県ほか1都13県	301	12	1932・6・10	三江省樺川県永豊鎮
集団第2次千振村開拓団	茨城県ほか1都17県	552	5	1933・2・7	三江省樺川県湖南営
集団第3次瑞穂村開拓団	茨城県ほか9県	217	2	1934・6・10	北安省綏稜県瑞穂
集団第4次哈達河開拓団	茨城県ほか1都1道27県	164	9	1935・2・6	東安省鶏寧県哈達河
集団第4次開原城子河開拓団	茨城県ほか1都1府26県	182	6	1935・2・6	吉林省舒蘭県城子河
集団第5次永安村開拓団	茨城県ほか1都1道1府22県	276	2	1936・3・7	東安省密山県永安屯
集団第5次黒台村開拓団	茨城県ほか1都1道11県	196	36	1936・3・7	東安省密山県黒台
集団第6次東光村西二道崗開拓団	茨城県ほか1都1道10県	260	4	1937・4・6	東安省密山県東光村
集団第6次黒咀子開拓団	茨城県ほか1都10県	129	1	1937・4・6	東安省虎林県黒咀子
集団第6次茨城村開拓団	茨城県のみ		132	1937・7・10	三江省鶴立県鶴立鎮
集団第7次大青川水府村開拓団	茨城県のみ		108	1938・5・2	浜江省珠河県大青川
集団第8次蘭崗開拓団	茨城県ほか5県	149	45	1939・6・2	牡丹江省寧安県道溝
集団第9次義合開拓団	茨城県のみ		64	1940・7・20	竜江省甘南県大平山村
集団第9次冷家店明和開拓団	大子町		34	1940・7・20	北安省依安県冷家店
集団第10次麒麟河茨城村開拓団	茨城県のみ		33	1941・8・3	興安東省布特哈旗麒麟河
集団第12次笠間村開拓団	笠間村		61	1943・10・3	東安省宝清県南哈嗎
集合第1次浄月開拓団	茨城県ほか1道13県	29	9	1940・7・4	新京特別市外向家店
集合第1～3次拉法開拓団	茨城県ほか1道15県	106	25	1940・5・4～	吉林省蛟河県拉法
集合第3次西弥栄開拓団	茨城県ほか1都1道11県	116	4	1940・5・4～	三江省樺川県千振
分散清明村開拓団	茨城県ほか1道22県	57	7	1939・6・6	新京特別市斐徳
分散願学農莊開拓団	茨城県ほか10県	21	1	1939・6・3	奉天省瀋陽県九站

【備考】戸数は1942年3月31日現在。集団開拓団は200戸～300戸、集合開拓団は30戸～100戸（1943年度から廃止）、分散開拓団は既設開拓団の地区内・隣接地に入植。『茨城県終戦処理史』（1972年）をもとに作成。

満洲開拓民入植図

- (凡例)
- 一般開拓団
 - ▲ 義勇隊開拓団
 - 義勇隊訓練所
 - 国境
 - - - 省境
 - 国 都
 - 省 公 署
 - 県 公 署
 - 及び主要都市



第9次義合開拓団
第10次麒麟河
茨城村開拓団

第9次冷家店
明和開拓団

第3次瑞穂村

第6次茨城村開拓団

第1次弥栄村

第10次笠間村開拓団

第2次千振村

第5次
黒台信野村

第4次哈達河

第7次大青川
水府村開拓団

第4次開原城子河

第7次
四家房大日向村

旅順

大連

閩東州

奉天

満州事変

満鉄（東清鉄道南満州支線・長春-旅順間）

(2) 引揚げ 1945 年 満州民間人約 155 万人 (約 24 万 5000 人死亡) 満州開拓団在籍者 27 万人 (応召約 5 万人、22 万人、約 8 万人死亡)、政府「現地定着」、1946 年 5 月から引揚げ開始 引揚げ者数 127 万 1497 人、1949 年国交断絶・中断 (『援護 50 年史』、『満州開拓史』)。

開拓団名	入植年月日	所在地	在籍	応召	死亡	未帰還	帰還	越冬地
集団第 6 次茨城村	1937・7・10	三江省鶴立県鶴立鎮	562	102	189	19	354	新京
8 月 10 日引揚命令。13 日「幼児六人をやむなく野原に捨て」、17 日「男子二人がソ連兵に銃殺」、12 月 21 日博多上陸。經化飛行場收容組 (幼児約 40 人死亡)。10 月新京、越冬、約 100 人が発疹チフス・栄養失調・病気で死亡。1946 年 7 月葫蘆島より帰国。								
集団第 7 次大青川水府村	1938・5・2	浜江省珠河県大青川	317	77	66	12	239	現地
日ソ開戦時 55 人応召、在団者 387 人。現地で越冬、63 人が病気で死亡。1946 年 9 月、引揚げ開始、現地残留 13 人、8 人中共軍留用。10 月葫蘆島、乗船時 158 人、船中死亡 6 人、佐世保港。								
集団第 9 次義合	1940・7・20	竜江省甘南県大平山村	245	50	26	33	186	現地
日ソ開戦時 32 人応召、在団者 196 人。現地に残留。8 月 28 日匪賊 300 騎襲撃、9 月 30 日匪賊 10 騎襲撃。集団第 9 次協和 (山形県) へ移動。12 月ごろ「子供を満人に売り、婦人も満人のところに嫁すという状態」。1946 年 8 月引揚げ開始、10 月葫蘆島より佐世保港、現地残留婦女子。								
集団第 9 次冷家店明和	1940・7・20	北安省依安県冷家店	160	17	55	8	97	新京 分村移民 大子町
8 月 28 日集結、10 月新京。新京で越冬、約 50 人死亡。1946 年 7 月、新京出発、佐世保港。								
集団第 10 次麒麟河茨城村	1941・8・3	興安東省布特哈旗麒麟河	121	17	39	3	79	大連 団長死亡
8 月 18 日 104 人出発、11 月大連、越冬、48 人死亡。1946 年 11 月、大連より帰国。								
集団第 12 次笠間村	1943・10・3	東安省宝清県南哈嗎	152	33	81	23	48	奉天 分村移民 笠間町
8 月 9 日、118 人 (応召不在者 33 人) 引揚げ開始。8 月 18 日、勃利県の第 10 次佐渡開拓団 (新潟県) 跡に到着。避難民 2000 人。23 日ソ連飛行機焼却、25 日ソ連報復、30 人犠牲 (佐渡事件)。開拓団四散、收容所で死亡、ソ連抑留、死亡者多数。								

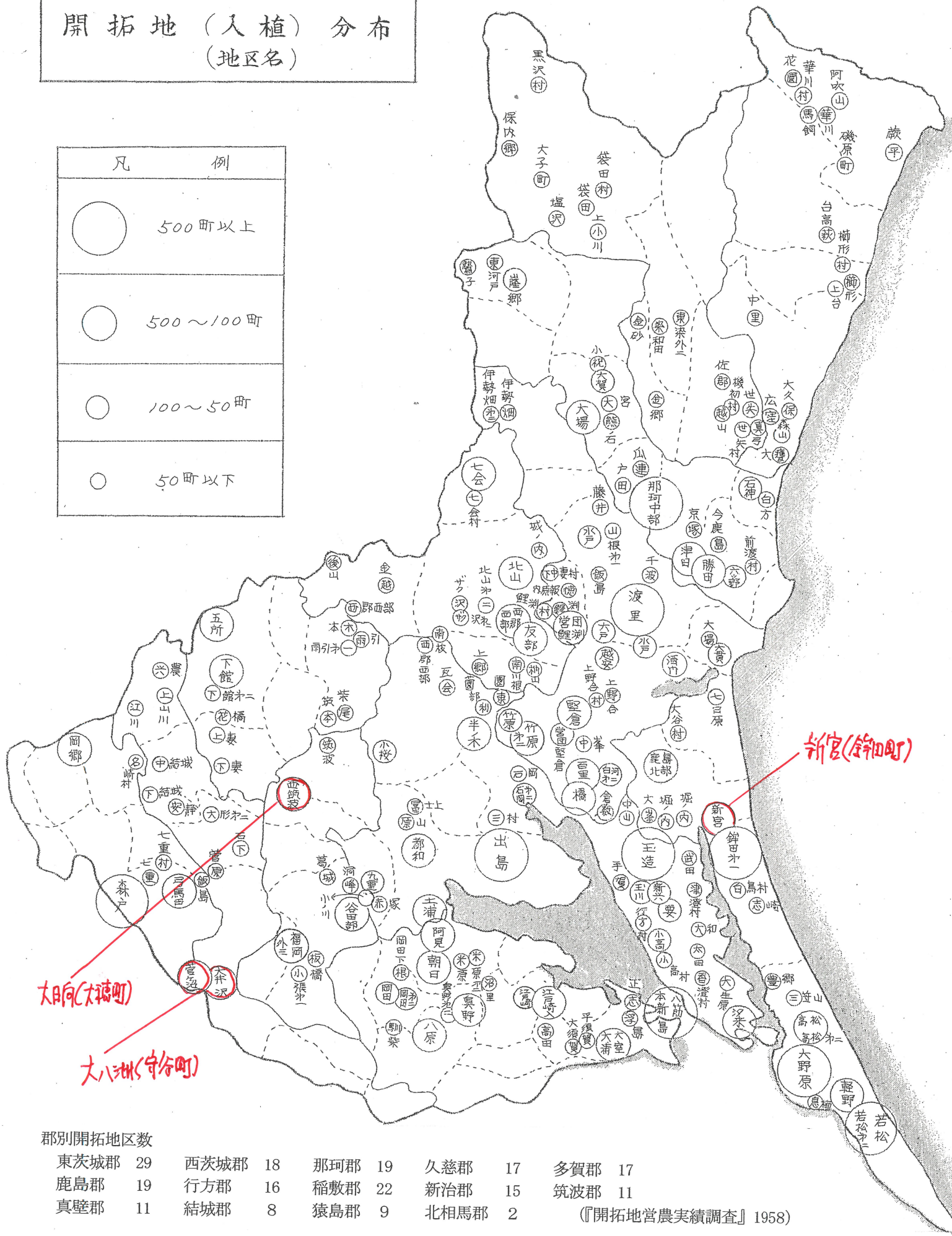
【備考】『茨城県終戦処理史』(1972 年)、『満洲開拓史』(1980 年) をもとに作成。

(3) 中国残留邦人

1953 年 民間レベル、5 年間で約 33000 人引揚げ、1957 年岸信介内閣、1959 年「未帰還者に関する特別措置法」、約 14000 人に対し「戦時死亡宣告」、中国人養父母に育てられた「残留孤児」約 2500 人、中国人の妻となった「残留婦人」約 4000 人と推定。1972 年国交正常化。山本慈照。1981 年から「残留孤児」訪日調査 (1999 年度まで、2116 人孤児参加、673 人身元確認)。2000 年度から日中共同調査 (12 人身元確認)。1994 年「中国残留邦人支援法」(帰国促進・定着援護・自律支援を国の責務、2007 年改正)。孤児認定 (2818 人、2015 年 11 月時点)。茨城県 帰国直後 59 世帯 (168 名)、現在 25 世帯。

開拓地（入植）分布 （地区名）

凡	例
	500町以上
	500～100町
	100～50町
	50町以下



郡別開拓地区数

東茨城郡	29	西茨城郡	18	那珂郡	19	久慈郡	17	多賀郡	17
鹿島郡	19	行方郡	16	稲敷郡	22	新治郡	15	筑波郡	11
真壁郡	11	結城郡	8	猿島郡	9	北相馬郡	2		

『開拓地営農実績調査』1958